



3月3日(金)第76回卒業証書授与式が行われ、238人の卒業生が内野中学校を卒業しました。



卒業式 式辞

校長 佐藤 靖子

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが、小学校を卒業する際に出された緊急事態宣言から早3年以上の月日が流れました。内野中学校入学後も、感染予防の徹底、マスクで表情が半分しか分からない中での生活で、不便を感じたことも多かったと思います。しかし、そのような状況であっても、教育目標「自主・他敬・自愛・創造」が目指す姿を実現すべく、仲間と共に新しい方法を見い出して、力強く進化していく皆さんの活躍する姿が多く見られました。

今年度の生徒会スローガンに「challenge Realize 挑戦する、実現する」が掲げられ、創立75周年記念として、皆が関わり、皆が楽しめる、今までにない工夫を凝らした各行事の企画運営を、3年生の皆さんが中心となり、挑戦し実現している姿が実に頼もしく、感動をたくさん頂きました。創立75周年記念ゆるキャラ「ウッチュー」の誕生や記念タオル、クリアファイル、ドローンによる撮影など、皆さんの思いをPTAの方々へ届けて実現しました。PTAの皆様のご理解、ご協力にあらためて私からも感謝申し上げます。

1年生の頃は、分散登校や部活動休止時期もあり、思い切り様々な活動ができないこともありました。その後の活動では、精一杯鍛錬し、試合やコンクールでは全力で臨む姿は大変立派でした。素晴らしい結果を残した人、思い通りの結果が得られなかった人、その結果が出た後の皆さんの過ごし方に変化はあったでしょうか？

「努力は必ず報われる。」という言葉があります。しかし、人生、必ずしもそうならないこともあります。

テストの結果や、様々な勝負の勝敗、コンクールの入選、落選等、今までも色々な評価を受け、これからもたくさんの挑戦の後に、評価をされる経験が益々増えていくことでしょう。この「努力は必ず報われる。」という結果にならなかった時こそが、本当の力がつく瞬間であり、その道のりは決して無駄ではないと自己肯定できるかが、人生のターニングポイントだと強く感じています。皆さんのこれからの人生において、更なる困難や葛藤に遭遇するかもしれません。しかし、決して自分に負けずに、乗り越え、力強く、歩み続けていただきたいです。

また、現在は、世界情勢が緊迫し、どんなに平和を望んでも戦争が巻き起こっています。どのようにしたら自分も皆も幸せに過ごせるのか、明るい未来にするために自分は何をしていくのか、この15年間でまだ答えは見つからなかったかもしれません。また、この15年間で、自分の価値を決めつけてはいけません。これからが、人生で最も大きく夢に近づくための勝負の時代がやってきます。本気で進み続けてください。

皆さんが実現したいことは何ですか？そのために、これからも実行していくことは何でしょうか？

実は私は、子どもの頃から高校野球が大好きです。自分のベスト名勝負は何と言っても、2009年地元、日本文理高校と愛知代表 中京大中京の決勝戦です。9回表6点差、2アウトランナーなし。まさしく絶体絶命でも、日本文理高校はあきらめずに1点差まで追い込みましたが、晴れやかな笑顔で負ける姿は感動でした。

もう一つの忘れられない名勝負は、1979年和歌山代表 養島高校と石川代表 星稜高校の延長18回の試合です。この時、4対3でサヨナラ負けをした星稜高校のピッチャー 堅田外司昭さんは、もう野球を辞めようとマウンドを降りた時に思ったそうです。しかし、その試合の審判員から最後の試合球をもらい、また甲子園に関わる仕事をしようと、審判員の資格をとり、令和3年夏の甲子園決勝戦まで、審判を務めていました。

人は、どこかで夢をあきらめたり、希望通りにならなかつたりすることで、そこから離れたいという衝動にかられる時があります。しかし、本当に好きならば、野球選手でなくても、野球を支える側になる審判や、道具を作る人や、グラウンド整備をする人など、視野を広げると様々なことが見えてきます。

なぜ、皆さんは義務教育を修了して、さらに上級学校へ進学をするのでしょうか？それは、さらに広い視野をもって、様々なことを学び、多様な価値観をもつ仲間や大人に出会い、自分の可能性を探すためだと考えます。実践した経験が多ければ多い程、より多くのチャンスに出会えます。そして、是非、自分自身や周りの人を幸せにできる存在になれるよう、これからも挑戦し続けてください。

さて、この卒業式に在校生の参列はできませんでしたが、1、2年生が、卒業される3年生への感謝の気持ちを込めて、メッセージを掲示してくれました。そして、生徒会とボランティアの皆さんが制作したイルミネーションやコンピュータ部が新潟大学工学部の方々から教えて頂いたプログラミングのイルミネーションが夕方から点灯しています。卒業されてもしばらく点灯し、地域を明るく、未来を明るく照らしています。いつも、内野中はここにいます。皆さんの心の拠り所となっていれば、幸いです。

いよいよ、この学び舎を後にして、それぞれ新しいステージへ向かいます。進む道は違えども、決して一人ではありません。この内野中学校で一緒に学んだ仲間がいます。そして、何よりも今まで育ててくださったご家族がいらっしゃいます。ご家族の方々へ常に感謝を忘れずに、恩返しができる人へと成長をしてください。

本日までお別れするのは寂しい限りですが、我々内野中学校職員一同は、皆さんの人生の一端に関わられて、たくさんの喜びと思い出を頂きました。

皆さんの新たな門出を心からお祝いすると共に、それぞれの人生に幸多かれと願い、私からの式辞と致します。



新潟大学工学部とPC部の連携によるイルミネーション

一年間を振り返って

二年代表

私は今年たくさんのリーダーを経験させてもらいました。その中でも一番印象に残っているのは飛翔祭の応援団です。一年生の時、先輩方がされている姿がとてもカッコよく、自分も来年やりたいと思いました。その思いをもって今年立候補し、応援団になることができました。応援団は自分が思っていたよりも大変な仕事でした。連合をまとめたり、盛り上げたり、振り付けを一人一人に教えたり一年生の時に私が見えていない苦労ばかりでした。そして、本番を成功させるために放課後の時間や夏休みに集まり、たくさんの時間を使って、どうしたら連合がよくなるのか考え協力しました。指示が通りにくく、うまくいかないこともありましたが、周囲のアドバイスを聞き改善していくことで日に日によくなっていきました。これからは自分達が最高学年になって学校を引っ張っていく番です。この経験を生かして協力し楽しい行事、学校をつくっていきたいです。

一年間を振り返って

一年代表

私はこの一年間でたくさんの経験をし、たくさんの思い出をつくりました。その中で特に印象に残っていることは二つあります。

一つ目は自分が選手として参加した新潟市中学校体育大会と、その激励会です。激励会では応援団中心で、私たち選手にエールを送ってくれたり、ほかの部活の大会に向けての意気込みを聞くことができたのがとても新鮮な感じがしてうれしかったです。そのおかげで大会では自分のベストを尽くすことができました。

二つ目は飛翔祭です。飛翔祭は学校行事で唯一、他学年や他クラスと協力して取り組むことが多い行事だと思っています。それぞれの連合が一つの目標に向かって団結し、練習を協力して行っているのが特に印象に残っています。そのほかにも先輩方のかっこいい姿を身近に感じることもできたのでとても楽しかったです。

ほかにもこの一年間でたくさんのことを経験しました。それらを生かしてこれからの学校生活を送りたいと思っています。